29-0396

日本人におけるうつ病のなりやすさとサイトカイン遺伝子多型

○井上 和幸[1], 伊藤 邦彦[1], 吉田 契造[2], 清水 徹男[2], 鈴木 敏夫[1]([1]秋田大病院薬,[2]秋田大医・精神科)

【目的】うつ病患者では健常人と比較して各種サイトカインの血中濃度レベルに変動があることが知られている。そこで、うつ病になりやすさへの各種サイトカイン遺伝子多型の関与について明らかにするため、その手始めとして、IL-4 および TNF-α 遺伝子多型に着目し、その遺伝子型分布及びアレル頻度をうつ病患者と健常人で比較検討した。

【方法】秋田大学医学部倫理規定に基づき同意の得られたうつ病患者 145 名、および健常人 159 名について、IL-4 *C-590T*, TNF-α *G-238A* 及び *G-308A* 遺伝子多型を PCR-RFLP 法により解析した。

【結果】IL-4 *C-590T* の遺伝子型分布は、うつ病患者では *C/C*: 17 名(11.7%), *C/T*: 55 名 (37.9%), *T/T*: 73 名 (50.3%), 健常人では *C/C*: 12 名 (7.5%), *C/T*: 100 名 (62.9%), *T/T*: 47 名 (29.6%)であり、うつ病患者では *T/T* 型、健常人では *C/T* 型の比率が高かった。アレル頻度はうつ病患者では *C* アレル:0.31, *T* アレル:0.69、健常人では *C* アレル:0.39, *T* アレル:0.61 であった。健常人とうつ病患者を比較して、遺伝子型、アレル頻度において有意差が認められた。一方、TNF-α *G-238A* 及び *G-308A* 遺伝子多型では、うつ病患者と健常人において、その遺伝子型分布及びアレル頻度に差は認められなかった。以上の結果より、IL-4 *C-590T* 遺伝子多型が日本人におけるうつ病の発症に関連している可能性が示唆された。